

平成25年度いしかわ里山創成ファンド事業 採択者一覧

1 里山里海の地域資源を活用した生業の創出(15件)

申請者	代表者氏名	申請者所在地	事業概要
小池赤土野菜組合	組合長 奥田 淳	金沢市	【耕作放棄地を活用した小池産赤土野菜のブランド化】 ・H21年に生産組合を設立、集落の有志で耕作放棄地を整備し、さつまいも(安納芋、兼六)など、赤土を生かした野菜生産を確立 ・小池産赤土野菜として、ブランド化を図るため、菓子業者と連携した干しいも等加工品の開発等を行う
奥能登原木しいたけ 活性化協議会	会長 新 五十八	穴水町	【「のどてまり」「のと115」の乾燥化による年間を通じた販売】 ・原木しいたけのブランド「のどてまり」「のと115」は、冬期間の生しいたけとして高い評価を得ており、周年販売が求められている ・現状では、春から秋にかけては乾燥「のどてまり」として販売するしかないため、乾燥しいたけを用いた料理(菓子利用を含む)の開発や試食販売を実施
かあさんの学校食堂	泊 ひろ子	穴水町	【地域食材を活用した食堂運営によるにぎわいの創出】 ・廃校になった兜小学校を拠点にして地域おこしを目指す農村女性グループが「かあさん学校食堂」を設立し、郷土料理を提供 ・地元食材を使った四季の食事メニューの開発とともに、高齢者世帯への配達業務を通じた昔ながらの調理方法を調査
株式会社 角永商店	代表取締役 角永 喜隆	白山市	【薪のブランド化による加賀地域の里山森林資源の再生】 ・H11年にアンテナショップを開業し、木製品に囲まれた暮らしの提供と木工体験教室を開催 ・アウトドアや自然志向を反映し、薪の需要が高まる中、加賀地区の森林資源(広葉樹)を活用した燃料効率の高い薪の製造開発と販路開拓
上林金沢茶舗	代表 織田 勉	金沢市	【能登島の耕作放棄地を利用した能登紅茶の商品化】 ・H21年に加賀市産の茶葉で「加賀の紅茶」を商品化 ・H24年から能登島の休耕地で茶の栽培を開始したところ、良質な和紅茶製造の可能性が高いことを確認 ・能登の紅茶としての商品化を目指すとともに、能登島の自然に適した茶樹のさらなる研究
興津を元気にする会	会長 山崎 朋博	津幡町	【独自のかぼちゃ栽培と彼岸花のオーナー制による地域づくり】 ・県立看護大学生との交流を機に始まった集落活性化の取組みを通じ、集落独自のかぼちゃ栽培に成功、H24年「興味津々」と命名 ・このかぼちゃを活用して加工品の開発のほか、水田の法面で咲かせる8000球の彼岸花オーナー制等を実施
国重柿農園(営業加工部門「西中農園」)	営業・加工担当 西中 宏美	能登町	【能登の農産物を利用した乾燥食品の商品化】 ・H24年に自社の出荷できない規格外の柿を活用し、乾燥チップ「花柿」を商品化 ・いちごや深層水トマト等能登町産野菜も乾燥商品化するほか、だいこん、とうがらし、ゆずなどの粉末食品やゴーヤのお茶パック等の商品開発
山菜ファーム・穴水	理事長 近藤 充夫	穴水町	【紫わらびのブランド化に向けた商品開発】 ・H24年に開催した全国山菜サミットを契機に、山菜を活用・商品化する機運が向上 ・食品製造業者が連携し、「わらびの茎や根」を活用した本物のわらび餅や、洋菓子、わらびのワイン漬けなどの商品開発を行う
株式会社しら井	代表取締役社長 白井 修	七尾市	【七尾の伝統食「巻鰯」の伝承と販路開拓】 ・夏に食べる巻鰯は真空パックで売られたものが多く、伝統的な食文化の継承が十分でない反面、巻鰯に対する東京での反応は高い ・七尾の伝統食「巻鰯」のパッケージ等の販売促進開発を行うとともに、「いしり」を用いた新商品開発を行う
能登マツタケ復活・里山再生運動の会	中山 吉男	能登町	【能登マツタケの再生に向けた取組】 ・能登マツタケの復活再生に向け、H18年からマツタケ未発生林の手入れを開始するとともに、H23年にはマツタケ移植技術を開発し、特許取得 ・所有林をモデル園としてマツタケ勉強会を開催するとともに、マツタケ適地(林)を選定し、マツタケ胞子を播種した成育状況調査を実施

1 里山里海の地域資源を活用した生業の創出(続き)

申請者	代表者氏名	申請者所在地	事業概要
白山麓わさび生産振興会	会長 竹腰 清美	白山市	【白山わさびのブランド化に向けた取り組み】 ・白山麓わさびの生産量は、10年前と比べ激減しているが(H13: 2.7t→H23:0.8t)、在来種「もちわさび」はすりおろすと粘りが強い特徴を有する ・もちわさびの特徴について物理的・化学的成分分析を行うとともに、乾燥粉末加工品の商品化等に取り組む
株式会社 神子の里	代表取締役 松本 政文	羽咋市	【神子原ブランドの創出、新たな新商品の開発】 ・H16年頃から、神子原米等の農産物の直売を開始し、「神子原ブランド」のさらなる育成・確立のためH19年に地域の農家が(株)神子の里を設立 ・神子原のロゴやラベル等の製作、HP等IT環境の整備のほか、米、そば、くわいに続く新たな育成作物を開発
三谷地区活性化推進協議会	会長 宮永 巖	加賀市	【休耕田を利用した山野草の栽培、販売促進】 ・Cook it Lowを契機に、東京の有名レストランのシェフが三谷地区の自然に着目、H24年から本格的に山菜や山野草を食材に使用 ・販売量を増やすため、休耕田を活用し野せりや山菜を栽培・育成するとともに、レストラン等に未使用山野草の利活用を提案する
株式会社 吉岡機販	代表取締役 吉岡 末男	金沢市	【能登ヒバを活用した商品開発、販路開拓】 ・H21年に能登ヒバから抽出した樹液と木酢液をブレンドした入浴剤「天木森(てんこもり)」を商品化 ・能登ヒバの建材以外のさらなる消費拡大を図るため、入浴剤の改良や樹液入りシャンプー、液体せっけん等の新商品開発に取り組む
輪島・海美味工房	代表 新木 順子	輪島市	【輪島産の海藻を活用した商品開発】 ・輪島市沿岸で採集・捕獲された海産物は、少量多種のため市場流通しにくく、多くが地元消費に止まっている状況 ・輪島産海産物の消費拡大に向け、ツルモを乾燥させ、糠漬けに加えることにより、日持ちする新商品の開発やパッケージ等を検討

2 里山里海地域の振興

(1)里山里海地域を元気にするイベント支援(2件)

上町公民館	館長 中谷 平兵衛	能登町	【「あえのこと」など伝統文化の継承に向けたイベントの実施】 ・上町地区は、奥能登最大の百姓一揆「宝暦一揆」の中心地で、「あえのこと」執行者も多数居住 ・そこで、当地区の史実や歴史的慣習の認識を深めるとともに、里山保全の重要性を知ってもらうため、百姓一揆「宝暦義民」劇上演や「あえのこと」の紙芝居制作、史跡巡りなどを実施
里山自然学校 こまつ 滝ヶ原	学校長 川島 平一	小松市	【「石文化」を活用した交流拡大に向けたイベントの実施】 ・滝ヶ原町は築100年余りのアーチ型石橋があるほか、現在でも藩政時代から続く「石切り場」が稼働 ・そこで、「石文化」の継承・発展に向け、石の「ハート型」モニュメント制作や地元石工職人によるストーンスクールの開校、ストーンシンポジウムの開催など石にまつわる様々な企画を実施

(2)里山里海資源循環モデルの構築による地域おこし(2件)

能登わかば農業協同組合	代表理事組合長 氣戸 佐俊	七尾市	【養殖かきの殻を利用した環境にやさしい能登米づくり】 ・七尾湾の養殖かきの殻は、これまで殆ど活用されず、堆積されたままになっていたが、今年度、七尾市内に粉碎施設が建設予定 ・今後、かき殻が粉状で使い易くなるので、水稻栽培に施用して食味調査等効果を実証し、かき殻を活用した環境にやさしい「能登米」づくりを確立する
株式会社 北陸グリーンサービス	代表取締役 松平 博之	金沢市	【放置竹林の再生と竹を使った商品開発】 ・近年、竹林が里山で拡大し問題となっており、当社では竹林の伐採を請け負い、竹炭や竹酢液の製造や竹をチップ化している ・伐採した竹のリサイクルを図るため、竹チップを利用した昆虫飼育用のマットなど新商品開発や竹を繊維に織り込む新素材を研究するほか、竹林伐採後の農地で青りんご等を栽培